～ 校長・教頭の ～

四方山話

令和４年４月29日
NO9

今回の「四方山話」は，「なぜだろう？」です。小学生だった頃、朝会で校長先生が「なぜだろう？」という疑問を大切にしてほしいという話をしました。校長先生の話に刺激を受け，小学生だった私が実際に行った，たわいもない試みを紹介します。

水中呼吸

茂泉　和浩

私が小学校高学年の頃だったと思います。朝の朝会で校長先生が「なぜだろう？という疑問を大切にしてください。そして私たち人類は多くの疑問を解決しようと努力を続けたことで今の発展があるのです。」というような話をしました。当時の朝会は校庭で立ったまま話を聞くので、気乗りしないことが多かったのですが、なぜかその朝会の時には珍しく校長先生の話を熱心に聞いたのを覚えています。

去年の「四方山話」で、小学生の頃、泳げないのに背泳ぎの選手になった話を書きましたが、泳げない原因は、背泳ぎの仕方を知らなかったことと、クロールや平泳ぎの息つぎが下手だったことにありました。その頃私の「なぜだろう？」は、「なぜ息つぎをするのか？」でした。息継ぎがなければどこまでも泳げるのにと思いました。そして、小学生だった私が必死に考えて「やってみよう。」と思ったことは、空気の代わりに水を吸うことでした。口から空気を吸って吐くのと同じように、水を吸って吐いたならどこまでも泳げるような気がしたのです。

いよいよ私の実験がスタートしました。魚のように息つぎをすることなく、ゆったりと泳いでいく自分がイメージでした。私の実験は、ほんの一、二秒で終了しました。ゆったり泳ぐどころか、むせかえりながらもがき苦しむ私がいました。「なぜあんなことをしたのだろう？考えれば分かることなのに。」と今は思うのですが、当時の私は校長先生が話した「なぜだろう？」の話に刺激され、自分の中では壮大な実験のつもりで試したのでした。

昨年インドネシアに来る前に、地元（宮城）のテレビ番組を見ていたところ、バイオミメティックス（生態模倣技術）の分野で活躍している東北大学大学院出身の方を紹介していました。彼は水中で呼吸ができる「人工エラ」を開発したと紹介されていました。簡単に言えば「水中の酸素を取り込み、かつ二酸化炭素を排出して呼吸できるようになる服」なのだそうです。そのテレビでは、「人工エラ」の機能は水生昆虫の呼吸メカニズムからヒントを得たことも伝えていました。もしかしたら人工エラの開発者も私と同じようなことを小さい頃考えたのかな？とか、水中呼吸でむせかえったまま終わりにした私に比べ、実用化する方法を見つけ出した彼はすばらしいとか、いろいろなことを思いました。

小学生の頃聞いた「なぜだろう？」という言葉をきっかけにした水中呼吸の話は、数十年経って意外な展開を見せていました。